



ビジネスグリッドの
狙い

1

ビジネスグリッド
技術解説

2

ビジネスグリッド 特集 コンピューティング

ビジネスグリッドの
実証実験

3

ビジネスグリッド
関連技術動向と
標準化活動

4

ユーティリティ
サービスを
実現する GridASP

5

◆ 編集にあたって

– IT 経営の最適化を目指して「ビジネスグリッドコンピューティング」

関口智嗣 >>>> 産業技術総合研究所：s.sekiguchi@aist.go.jp

三浦健次郎 >> 三菱電機(株) 情報技術総合研究所：miura.kenjiro@eb.mitsubishielectric.co.jp

特集

ビジネスグリッドコンピューティング

今年の5月11日と12日に開催されたグリッド技術に関するビジネスショー「Grid World 2006 in Tokyo」(主催 IDG Japan, グリッド協議会)では約3,500名近い来場者を迎えた。参加者の90%以上はベンダ、ソリューション提供者、ユーザ企業のIT管理者などであり、企業の情報システムにおけるグリッド技術への期待の高まりを感じた。一方で、グリッド技術がよく分からないという声もある。そこで、ビジネスに役立つグリッドすなわちビジネスグリッド技術という観点から特集を組み、解説を行うこととした。

本特集では「ビジネスグリッドコンピューティングプロジェクト」の構成メンバに執筆をお願いしている。ビジネスグリッドコンピューティングプロジェクトは研究開発の成果が迅速に事業化に結び付き、産業競争力強化に直結することを狙う研究開発プロジェクト(フォーカス21)の1つとして経済産業省が主導し平成15年度から開始されたプロジェクトである。複数の企業からなる開発コンソーシアムと事務局のIPA((独)情報処理推進機構)が連携して、民間のコミットメント(資金・人材等)を前提とし、短期間で実用化、事業化に直結することを目指して平成18年3月まで3年間の予定で技術開発および標準化活動を推進してきた。本特集ではこのプロジェクトの成果と今後の適用についても解説をお願いしている。

グリッド技術は、高エネルギー物理学、天文・地球観測データ、バイオ・ライフサイエンスなどの複雑かつ大規模な問題を解決する情報システムを、多数の計算機や大量のデータベースを統合することによって創出することを目指した技術である。初期のグリッド研究の成果として、たとえば文部科学省が主導する「超高速コンピュータ網形成技術」(NAREGI)に代表される科学技術計算を対象としたグリッド技術がある。一方、このグリッド技術を企業の情報システムに適用することで、システムの効率的な運用が可能となることが、次第に指摘されるようになった。これがビジネスグリッドの始まりである。

特集の概要は以下の通りである。「ビジネスグリッドの狙い」(吉野, 阿部, 中)では科学技術用のグリッド技術とビジネスグリッド技術との比較を行い、企業情報

システムの可用性/運用性を向上するビジネスグリッド技術、という新しい領域への取り組みに焦点を合わせ概説している。「ビジネスグリッド技術解説」(宮川, 佐治, 工藤, 田崎)では実際にグリッドミドルウェア開発に携わった立場から技術的な特長とその詳細についてその技術インパクトを解説していただいた。「ビジネスグリッドの実証実験」(幕田, 佐々木, 阿部, 藤野)ではユーザ企業での実証実験を例としてビジネスグリッド技術の特長と今後の適用可能性について解説を、さらに「ビジネスグリッド関連技術動向と標準化活動」(福井, 岸本, 佐川, 中田, 森, 館村)ではビジネスグリッドプロジェクトでリードしてきた国際標準活動の成果と現状について俯瞰している。そして最後にビジネスにおけるグリッド技術の別の視点での適用例として、「ユーティリティサービスを実現するGridASP」(伊藤)では構造解析, 流体解析等のエンジニアリング分野におけるユーティリティコンピューティングの実現を目指した実際例について紹介を行っている。

本特集は企業視点でのグリッド特集として構成したが、大学関係者の皆様にも興味を持っていただける内容になったのではないかと期待する。体系的に整理されたビジネスグリッドに関する技術解説記事としては恐らくはじめてのものになったと思う。今後はビジネスグリッド推進コンソーシアムやグリッド協議会などのWebサイト等で継続的に情報発信がされていくので、注目を続けていただきたい。また、今月からグリッドとSOAの視点からWebサービス標準の解説を試みる連載「グリッドとSOAからみるWebサービス標準技術」が開始されるが、こちららあわせてお読みいただければ幸いです。

最後にご多忙中にもかかわらず本特集の執筆を快くお引き受け下さった執筆者の皆様へ感謝いたします。また、編集にあたり閲読や貴重な助言を賜りました情報処理学会会誌編集委員ならびに事務局の皆様にお礼を申し上げます。

(平成18年8月11日)